

# 避難者通信第106号—主権者の権利とは何だ？—

2022年1月1日

矢ヶ崎克馬

2022年元旦新年明けましておめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

まずお知らせです。

## ◆ゆんたく学習会（ZOOM）

日時：1月22日16:00-。1時間半くらい

話題提供：（矢ヶ崎克馬）

「放射線被曝」に於ける『被曝しない権利の剥奪』は現在の日本社会に於けるすべての『基本的人権剥奪』に通じる」

参加を希望される方は事前に [phoenix.pmy@gmail.com](mailto:phoenix.pmy@gmail.com) へご連絡ください。

## ◆矢ヶ崎克馬著：「放射線被曝の隠蔽と科学」著者割引

送料込みで3200円（税込み価格は3520円）

申し込みは [yagasaki888@gmail.com](mailto:yagasaki888@gmail.com) まで。

なお、頂いている書評を添付いたします。

今年は私たち主権者が主権者らしく振る舞える年にしたいと思います。

これのみが「基本的人権を守り、憲法に掲げられている諸原理を憲法どおりに生かし、戦争を放棄したはずの国が、国際紛争に巻き込まれることを防ぐ」唯一の道です。

若者もお年寄りもみんな頑張りましょう。

昨年までは、ルールを守らない自公政権の政治私物化があまりにも激しいものでしたから、国会でも真の生産的議論を行うことができない状況が続きました。主権者の切実で信頼置ける社会の実現を求める声が「自公政治に対してルールを守ることを要求する」多大な時間/多大な緊張/多大な苦労が費やされました。基本的人権の行使が「全て反対ばかり」という「不当な言いがかり」に表現されたように、安倍・菅・岸田政府の野蛮なルール破壊を問い質すことの無い権力追従のマスコミの権力への迎合が目立ちました。

憲法に規定されるルールが破られ、人権が犯された事々とその懸念を記します。

私たちの非常に多くの努力が事態を未だこの程度に留めてきたことばかりです。

### (1) 自民党の改憲案は明治憲法時代に遡り

①自民党の改憲案を見ると「前文」から危険な規定が満載されています。曰く「家族や社会全体が互いに助け合って国家を形成する」。民主的な家族関係や夫婦別姓、性的マイノリティー等など、とんでもない国家形成違反とされ、生活権自体が親族の扶養義務に置き換えられる危険（関連14条、家族は互いにたすけあわなければならない）、天皇が「国家元首」とされ、憲法に元号が位置づけられるのです。「戦争ができる美しい国」とは単に戦争ができるようにするだけで無く社会全体の考え方を明治憲法的に逆戻りさせるものな

のです。内容的に基本的人権が「憲法で許された権利」に置き換えられます。とんでもないことです。

②第9条では、「自衛隊が正当に位置づけられる」などはまやかし宣伝に過ぎません。とんでもない軍事国家に置き換えられるのです。国防軍が明記され、「国際社会の平和と安全を確保するために国際的に協調して行われる活動及び公の秩序を維持し」とされ専守防衛を守ることはおろか、集団的自衛権も国際的戦争への参加に対して何の制限も無くなるのです。

③第26条では「教育が国の未来を切り開く上で欠くことのできないもの」とされ、基本的人権に基づく「教育は一人一人の可能性を全て能力として開花させる」ことの原理を破壊する国家主義的宣言が述べられます。

④第9章（緊急事態宣言）では緊急事態と宣言した事態に於いて大権を内閣総理大臣に集中する。ドイツワイマール憲法の「緊急事態宣言」により、ナチスドイツが独裁に入った事例が異常な危機感を代表しています。

⑤自民党案『憲法改正』では日本社会全体の構造が侵略をした時代、明治憲法の時代に逆戻りする内容がいっぱいです。参議院選挙で壊憲勢力を押さえ込むことが当面の課題です。憲法問題は私たち人権の課題です。

(2) 沖縄「辺野古米軍基地建設設計変更」に対して沖縄県知事玉城さんは「不承認」でした。政府の対応は、行政不服審査法に基づいて、防衛省が閣内の基地建設を共同で進める国交省に「不服」の調停を求めるという『禁じ手』が繰り返されています。70%以上の県民の「新米軍基地建設を許さない」民意は変わりません。

(3) 今年は沖縄復帰50周年—逆戻りの歴史か？

①台湾有事に石垣島にミサイルが配備されました。与那国島、宮古島等への自衛隊配備が進んでいます。敵基地攻撃能力が完備されようとしているのです。侵略では無いが、前線基地の最新の攻撃能力の高い基地が破壊対象となります。沖縄は再び戦場となる危険に晒されています。対中国の前線基地として再び日本から「切り捨てられ」て、軍事基地/要塞化されています。

②コロナ禍。米軍が軍事優先で何の検査もせずに兵員移動していて、基地内外大量感染。

③米軍貯油施設からのフッ素化合物の汚水が周辺住民地区の井戸などで検出。日本の暫定基準の1700倍。検査も公表も自由にできない。植民地としての日米地位協定。日本は反共体制であるサンフランシスコ条約と安保条約から離脱し毅然として主権を確保し全方位的平和条約を締結しなさい。戦後78年、人権蹂躪の欲しいままを日本政府が許す体制はもう止めてくれ！沖縄県民にとって許すことのできない主権・人権破壊に終止符を打とう。

(4) 原発事故11年目になろうとしています。この間、放射線被曝から免れるはずの人権は一顧だにされませんでした。

①民主党政権は、自民党ならば必ず行うはずの「核産業の保護」と国家予算に負担を掛けない住民保護の切り捨てを行いました。1ミリシーベルト/年の法律を無視して国際原子力ロビーの反社会的指針の「高汚染地域に住民を住み続けさせる」対処をしたのです。

①健康被害、死亡率増加等が一切隠蔽され、国際原子力ロビーは「フクシマで20mSvの規制で一切の健康被害が出なかった」と国際的被曝保護基準を桁違いに悪化させようとしています。自民党が食品の放射能基準を10倍以上に緩めることを提案しています。地球温暖化に際して、真に有効な施策を実行するのではなく、虚偽に満ちた危険隠蔽で原発をエネルギーとして使用する、ソフト面での対応「基準劣化」で原発の維持を図ろうとしているのです。原発は地球規模での廃絶しか道はありません。地球を守り、命を守るためにも原発廃止を放射線被曝廃絶とともに進めるのが人類の道です。

#### (5) 権力のルール無視・政治私物化は社会を破壊する

①昨年、「黒い雨・控訴審」で人道的にも、科学的にも、法的にも画期的な素晴らしい判決がありました。76年を耐え抜き、主張し続けた黒い雨被災者に、司法から誠実な一歩しかし、科学からみると当たり前で、遅きに失した一見解が表明されました。これに対し、岸田内閣は司法の最終見解よりも行政の都合を優先させる「「黒い雨」訴訟を踏まえた審査の指針改正の骨子」を示し、残念ながら広島県も市もこれに従ってしまいました。立憲主義と称し、法治国家と称する日本の民主的建前である「三権分立」を破壊する暴挙です。行政権力は憲法的約束事項を守らねば、その任に居る資格はありません。

②安倍首相による権力私物化はモリカケサクラと切りがなく、公文書の書き換えを命じられ、自死した財務省近畿財務局の元職員赤木俊夫さんの妻雅子さんが起こした裁判が、岸田政府の「認諾」により事実関係を明らかにしないまま終結させられました。

③権力者の人権破壊の「権力行使」の姿勢は公務員全般に影響を与えます。名古屋入管施設でウィシュマ・サンダマリさんが命を奪われたのは、文字通りの非人間的権力行使でした。人権を破壊する権力行使です。安倍や菅の無法な権力行使そのものに通じます。

④この権力蛮行は、幼少から競争的環境下で社会の中での連帯を拒否され続けた犠牲者市民の犯罪として「京王線車内刃傷放火事件」、「大阪北新地ビル放火殺人事件」等々の、命のつながり、社会からの孤立を示す精神的荒廃・残虐事件の社会的背景を形成していると思います。「戦争のできる美しい国」作りのための教育から基本的人権基盤が奪われ「服従を知られる社会関係」に着いていくことができなかつた人々の姿があります。自公政権に政治を任せて、反共国家で、人格権さえ奪われている社会関係が故に日本社会は精神的にも破壊に向かっているのです。主権者に主権を取り戻さなければならないのです。

#### (6) 民主主義の原理は衆知を集めること 昨年の「市民連合」の提起による「衆議院選挙の基本的政策」に基づき野党共闘が実現いたしました。

①明らかに「共闘効果」は示されました。しかし数の上で大局として自公の支配を崩せず、立憲・共産の減退がありました。共闘失敗！共産党は全体主義！等のマスコミの事実に基づかない大合唱がありました。

②民主主義に立脚する議論の基礎は「衆知を集めて、正確な現状認識をし、人道的な対策をすること」です。これを破壊するのが、「金による功利主義、大政党の数に頼んだ邪なごり押し」です。主権者の誠実な思いを実現するには「共通点で一致し、力を合わせる」しかありません。

③しかし、この民主主義の常道に対して、立憲民主党は有権者を民主的に導く説得的な論陣を張らず、「共産党は全体主義」と根拠無く主張する「連合」に足場を置きました。単

なる頭数あわせの権力闘争では民主主義を貫き獲得することはできません。

④この姿勢が曖昧ならば、かつての民主党のように、自民党ならば一番やりたい「原発産業の保護」で原発事故を処理してしまった誤りを繰り返さざるを得ないこととなります。大事な基盤を民主主義に置かず「権力闘争で頭数合わせ」に置くからです。

⑤共産党は野党共闘を実現させるために、従来は全選挙区で候補者を立てていたのに、約210選挙区で共闘を実現させました。内、共産党候補は10数名のみ。共産党候補は289選挙区のうちの90選挙区ほどに限定されました。ある意味では比例区の票が物理的に減って当たり前と推察される選挙を行ったのです。人権を取り戻そうとして、選挙制度で行われたこの自己犠牲的な建設を私たちは無視してはなりません。

⑥共産党はこれらに対して、事後に不満めいたことは一切口に出していません。これは見事なもの判断しました。

⑦共闘のあり方として民主主義陣営としての一致した有権者への働きかけの姿勢が必要です。共闘陣営の互いの配慮が必要です。ポピュリズムといわれる反共的大衆迎合は人権破壊への道です。

⑧戦後の日本は反共主義体制の「サンフランシスコ条約」で出発し、同時に主権を売り渡した「日米安保条約」を当時の吉田首相たった一人の文字通りの独断で結んだ日本の恥すべき戦後です。60年の安保改定では日本主権者の大多数がこの条約に反対しました。

⑨1961年にはケネディーライシャワー路線が出発し、日本統治の根本戦略を見直しました。

⑩ライシャワー曰く「自由陣営として日本統治のためには日本共産党を孤立化させることが肝要。この党に対しては、歴史的に侵略戦争反対を貫き通したようにあらゆる懐柔は困難。他のあらゆる中間政党は懐柔可能である。

⑪我々は反対勢力を取り込み、彼らが政権を握るときには政策的には自民党の政策をそっくりそのまま継承できるように育てることが必用である。あらゆる手立てを尽くし、10年掛かろうが20年掛かろうが我々はやり遂げなければならない。」(米軍司令官交代式でのライシャワー講演)

⑫1980年「社公合意(共産党を政権構想に含めない)」以来全くこの通りの政治が実現してきました。

⑬日本の主権を回復することに対して最重要な課題に、今や共産党と少数政党しか基本姿勢を示すところはいなくなっているのです。

⑭この様な歴史背景を睨みつつ、野党共闘で共産党の視点と努力は高く評価できると判断します。反共主義の中で「反共」を唱えて国の主権を売り続ける姿勢では日本の誇りある主権の発揮は永久に訪れません。この道は国の主権だけは無く、基本的人権を基盤とする市民主権を破壊し続ける政治です。

⑮私たち、主権者が主権者らしく振る舞うことのみが、この地獄道から脱することができる方法です。正しく現実を見て、適切に判断し、自分で自分の行動を決定することを致しましょう。一人一人が大切にされる社会は私たちが作り出すのです。頑張りましょう。

今年は主権者が主権者らしい姿勢を示し、成果を見ることが出来る年にしたいと願います。

根本にある歴史と事実を誠実に捉え直しましょう。

皆々様の尊い人としてのご奮闘を祈念いたします。

矢ヶ崎克馬著「放射線被曝の隠蔽と科学」（緑風出版）

書評



目次

(1) 山田耕作氏	*****	2 ページ
	沖縄タイムス文芸欄	6
(2) 下澤陽子氏	*****	6
(3) 松元保昭氏	*****	3 1
	北海道反核医師・歯科医師の会	3 3

## (1) 山田耕作氏

最近出版された矢ヶ崎克馬著「放射線被曝の隠蔽と科学」

緑風出版 2021年5月刊をお薦めします。

[緑風出版 | 放射線被曝の隠蔽と科学 \(ISBN978-4-8461-2109-9\)](https://www.ryokufu.com/)

[\(ryokufu.com\)](https://www.ryokufu.com/)

矢ヶ崎克馬氏は放射線被曝の被害者を支援するために、長年先頭に立って活動してこられました。特に科学者の立場から被曝の問題を中心に研究して来られました。今回、国際放射線防護委員会 ICRP をはじめとする国際原子力ロビーの放射線被曝の隠蔽と「防護体系」の根本的な誤りを批判し、正しい科学を提示した書として本書を出版されました。

ご自身の活動を振り返りつつ、科学と科学者のあり方について自分の信念を述べておられます。科学にとって批判精神が如何に大切かがよくわかります。

そして真実と人権を護るためには勇気を持って戦う気概がなくてはならないことが示されています。

わたしは放射線被曝の科学にとって歴史的な書であると思います。  
ご検討ください。

### 私がお薦めしたい本

矢ヶ崎克馬著 「放射線被曝の隠蔽と科学」

緑風出版、2021年5月 A5判上製/284頁/3200円 ISBN978-4-8461-2109-9  
C0036

推薦者 山田耕作

#### 1. はじめに

本書は福島原発事故10年の節目に、放射線被曝被害者の支援の運動の先頭に立って活動してきた著者が科学者の立場から、国際的に核を推進するIAEA(国際原子力機関)、ICRP(国際放射線防護委員会)、UNSCEAR(原子放射線に関する国連科学委員会)などからなる原子力ロビーによる被曝の隠蔽を暴き、ICRPの放射線被曝体系の根本的な間違いを批判し、正しい放射線被曝の科学を提示した書である。原子力ロビーとはIAEA、ICRP、UNSCEARなど国際的に核の利用を推進する国家・企業の利益のために巧みに働きかけている組織である。

#### 2. IAEAはチェルノブイリ事故後、「住民に被曝を強制し、避難させない」

### 政策に転換した

チェルノブイリ事故 10 年を経た 1996 年、IAEA など原子力ロビーは、大量の被曝を容認し、住民を避難させない政策へ転換した。その指示の下、日本政府は、チェルノブイリ事故では年間 1mSv(ミリシーベルト)以上で認められた避難の権利を福島原発事故では認めず、20mSv までの被曝を容認し、その汚染地への帰還を強制している。このことは汚染地に住む数百万人の住民に汚染地での被曝労働と汚染した農水産物で生活することを強制するものである。著者が言う「知られざる核戦争」の最前線である。これはあらゆる戦争と同様に最も基本的な人権、健康で安全な生活を送る権利を侵害するものである。

### 3. 隠蔽され続けてきた内部被曝

被曝には体の外から放射線を受ける外部被曝に対して、呼吸や食事で放射性物質を体内に取り込む内部被曝がある。とりわけ広島・長崎の被曝でも無視されてきた内部被曝は本質的に重要である。ところが日本の食品基準 1kg 当たり 100Bq(ベクレル)は緩すぎるのである。例えばセシウム 137 を毎日 100Bq ずつ、1 年間摂取する(合計で 36500Bq)と、ICRP の理論で 12000Bq が体内に蓄積する。体重 60kg の人とすると 1kg 当たり 200Bq となり、心臓、肝臓や腎臓など多臓器不全で死亡したベラルーシの人たちの蓄積濃度に近くなる。ところが ICRP の理論に基づけば、セシウム 137 の 77000Bq の摂取を 1mSv の被曝に換算して安全としているのである。

矢ヶ崎氏たちの政府の人口動態調査を用いた推計では 2011 年から 2017 年までの 7 年間に日本で過剰に死亡した人が 27.6 万人に上るといふ。同期間に出生数の異常減少は 27.1 万人である。沖縄でも老衰による死亡率が高いということなので、食品を通じた内部被曝が主な原因として検討されるべきである。体内に蓄積したセシウムなどの放射性元素は水などから活性酸素を発生させ、脂肪膜である細胞膜を破壊し、臓器を損傷する。この細胞膜の破壊は外部被曝の線量の 5000 分の 1 の線量で起きる。この放射線の間接的効果である活性酸素を介しての細胞膜の破壊はペトカウ博士が発見したのでペトカウ効果と呼ばれる。このセシウム 137 等の体内蓄積による多様な病気がチェルノブイリでは多発しており、「長寿命放射性元素取り込み症候群」として大きな健康被害をもたらしている。本書の著者はこれを「活性酸素症候群」と呼んでいる。

### 4. ICRP の放射線被曝体系はもはや科学ではない

ICRP に基づく放射線被曝の体系は広く普及し、日本をはじめ世界の医学・放射線科学の基礎ともなっている。この ICRP の放射線被曝の体系が、「放射線被曝を隠蔽する『エセ科学』であると告発し、正しい被曝の科学を提示するのが矢



ヶ崎克馬氏の本書である。その理由・根拠は次の通りである。

自然科学の対象は、客観的に存在する物質である。その物質に何かが作用したときに作用の具体的現れを作用の帰結として因果関係を明らかにするものが科学である。因果関係が法則的に捉えられたとき、科学的に解明されたという。放射線の害悪の根源は原子の結びつきを破壊することである。ICRP の被曝体系は電離の具体性を捨象し、生体の修復能力が電離の具体性に依存することを不問に付し、具体性のないエネルギーだけを取り扱い対象とする。そのうえ、電離を受けなかった大量の細胞を「吸収線量」計算に参入させることを制度化する。その方法として、臓器/組織あるいは全身での質量で吸収エネルギーを基準化している。それが「吸収線量」である。ICRP は吸収線量を被曝の影響を捉える唯一の因子としている。しかし、有効な科学は、まず具体的な被曝実態を捉える。これが科学の最も重要な第一歩である。①電離、分子切断等の物理的現象を具体的に捉え、②それに対する生命体の反応を具体的に捉え、③出力としての健康被害のメカニズムを検討しなければ被曝防護の体系にならない。「吸収線量」を唯一の因子とする ICRP の体系は科学としての出発点を持たない。そのうえ、「吸収線量」さえ定義どおりに使用せず、「照射線量」で置き換えている。このことにより、細胞等の培養実験、動物実験等の結果は全て放射線の被害を過小評価する方向で整理される。

ICRP は以上のように科学をすることを排除した体系である。生体の反応に対する科学/事実はブラックボックスに押し込められた。放射線による健康被害は活性酸素症候群と呼ぶべき大量の症候群を成す。しかし、ICRP はブラックボックスに閉じ込めることによって、事実上がんと少数の臓器の健康不良にとどめている。ICRP は「吸収線量」の計測単位を臓器あるいは組織ごととする。内部被曝の場合、圧倒的に多量な「電離を受けない細胞」を含めて平均化する手法で、電離の具体性を数値上で隠蔽する。・・・総じて内部被曝を無視する政治的目的の具体化である。

## 5. 正しい放射線被曝の科学の構築に向けて

本書推薦者の理解したところでは ICRP の被曝体系は吸収線量のみを被曝の作用として導入し、生命体における具体的実態、臓器、細胞、遺伝子、免疫機能、ホルモン作用等々を捨象する。ファントムという人工の物体に放射線を照射する。応答は生命体とは全く異なるはずである。ICRP は内部被曝を外部被曝の応答ですり替え、応答としてがんと遺伝的影響、少数の健康被害のみを考慮し、他の被害を無視する。外力と応答という科学の根本を否定する制約を加えた体系で科学たり得ないことは結果を見ずとも想定されることである。臓器や細胞など生命体の運動、免疫機能やホルモン作用など生きた生命体の反応を考



慮せずして健康被害を論ずることができないのは自明である。ICRP は細胞学や内分泌学の発展以前にとどまっているのである。それが内部被曝に対する無視・無力、特に放射線被曝による活性酸素の発生による健康破壊を無視することになるのである。原因は体系の根本にあるため改良は不可能である。ペトカウ効果による細胞膜の破壊など細胞なしに議論できるはずがない。それ故、日本はもとより世界の放射線被曝の専門家、医学者に根本的な「放射線被曝の科学」の転換を迫るものである。これまで広く普及していた学説の否定というその衝撃の大きさの故に、信じがたいと思われる人も少なくないと思う。しかし、科学は過去には正しいと信じられたものが否定され、より普遍的で正しい真理に接近することが常である。連続的な変化もあれば革命的な変化で根本的な体系の改変を伴うこともある。私はこの矢ヶ崎氏の告発は科学的に合理的であり、真実であると確信する。

## 6. 終わりに

本書のような ICRP に対する批判は矢ヶ崎氏以前に欧州放射線リスク委員会 (ECRR) が 2010 年勧告 (山内知也監訳) で行っている。しかし、矢ヶ崎氏の批判がより徹底している。放射線被曝の学問体系の改変はその進歩の上では歴史的必然である。すでに、チェルノブイリ事故による健康被害をめぐって、健康被害を認めようとしない国際原子力ロビーと住民保護を実施する現地科学者専門家とが対立し、完全に「科学が二極化」した。大事故の発生とともに、原子力ロビーの現実を無視した露骨な健康被害の否定から、その正体、被曝を防護せず、逆に強制することが露呈してきたのである。

様々な学説の真偽は、客観的な自然現象を具体的に観測し学説と比較対照し、実験を行うことで検証・確認することができる。真理は常に具体的である。科学はその具体性に基づき、こちらから働きかける実践を通じてどこまでも真偽を追求することができる。放射線被曝の科学においても、同様の体系の対立とその転換が起こっていることを証明しているのが本書である。

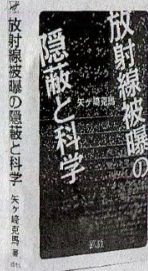
# 原子力ロビーの欺瞞暴く

科学論

矢ヶ崎克馬著

本書は放射線被曝被害者支援運動の先頭に立つて活動してきた著者が、「原子力ロビー」による被曝の隠蔽とICRP（国際放射線防護委員会）の放射線被曝体系の欺瞞を暴き、正しい放射線被曝の科学を提示した貴重な書である。原子力ロビーとはIAEA（国際原子力機関）、ICRP、UNSCEAR（原子放射線の影響に関する国連科学委員会）等、核の利用を推進する国家・企業の利益のために巧みに働きかける国際組織である。本書の要点を以下に紹介する。

チェルノブイリ事故10年を経た1996年、IAEAは住民を避難させない政策に転換した。それに従い、日本政府は、チェルノブイリ事故では年間1ミリシーベルト(mSv)以上で認められた避難の権利を福島原発事故では認めず、20mSvまでの汚染地での生活と帰還を強制している。このことは汚染地に住む数百万人の住民に被曝労働と汚染した農水産物に基づく生活を



## 放射線被曝の隠蔽と科学

強制するものである。著者が言う「知られざる核戦争」の最前線である。

放射線被曝には外部被曝と呼吸や食事で放射性物質を体内に取り込む内部被曝がある。広島・長崎の被曝でも隠蔽されてきた内部被曝は放射性微粒子を取り込み体内から集中的被曝を与え、チェルノブイリでは多様な病気が多発している。日本の食品基準は緩過ぎる。

矢ヶ崎氏たちの政府の人口動態統計に基づく推計では2011年から2017年までの7年間に日本で過剰に死亡した人が27・6万人、出生数の異常減少は27・1万人による。沖縄でも老衰等の死亡率が高くなっている。食品を通じた内部被曝が疑われる。体内に蓄積した放射性元素は活性酸素を発生させ、細胞膜を破壊し、臓器を損傷する。生きた人体の細胞や免疫などの働きを無視して、ICRP体系に基づいて吸収線量のみから内部被曝による健康破壊を導くことは不可能である。この具体性の欠如こそ本書が言うICRP被曝体系の破綻の原因である。

緑風出版・PONCHO  
くやがき・かま 1943年生まれ。物性物理学者(理学博士)。琉球大学名誉教授

## (2) 下澤陽子氏

6月7日 22:22

昨日、届きました、矢ヶ崎先生の新しい本。

一字一句、読み逃すまいと大事に噛み締めながらゆっくり読み進めています。

本を開いてすぐの16ページ目

今まで、何度も聞いては衝撃に打ちのめされた言葉がありました。

防護政策の転換:IAEAの1996年会議 「チェルノブイリ10年後」

その結論部分において

「通常、人々は日常生活の中でリスクを受け入れる準備ができている。彼らはそのような状況の中で専門家を信じており、当局の正当性に疑問を投げかけていない」

なにを言うのか？！

私たちが一体いつそんな準備をしたと？

うちの娘はそんな準備なんぞした覚えはないぞ！好き勝手なこと言うんじゃない

なんてね。。あらためて。涙出てくる。。

.....

「被曝を軽減してきた古典的放射線防護は複雑な社会的問題を解決するためには不十分である。住民が永久的に汚染された地域に住み続けることを前提に、心理学的な状況にも責任を持つ、新しい枠組みを作り上げねばならない」

と防護指針を抜本的に変えることを宣言したのである。

被曝量軽減を趣旨としてきた「放射線防護体制」が事実上放棄され「高汚染地域に住み続けさせる」という被曝を強制する体制が宣言されたのである。チェルノブイリに続く次の事故が生じた場合の新方針が打ち出されたのである。

その内容は、住民保護の観点から施行されたチェルノブイリ法に基づく「避難移住」を否定し、「被曝防護せず」としたことだった。

.....

ほらね、堂々と、言ってるんです。

ちゃんと見ればわかる。

私たち(IAEA)は、事故が起きても、守ることはしません、永久的に被ばくは受け入れてください、そのために、援助はします。

…じゃないと、原子力産業成り立ちませんから、、てことですね。

私たちが311、福島原発事故後に、福島の復興、とか、呼んでいるものの正体、ここを見るとよくわかります。

この許されない、吐き気を催す「復興」とやらの正体、ここにあり。

日本の人は皆、知るべきと思います。

これを受け入れさせられているのは何も福島の人たちだけじゃない。それは決して共有されることのない日本の土壌の放射能汚染の度合いを見ればわかる。この国で「放射線管理区域」に相当する地域に居住する人は100万人を超えます。

はあダメだー😞少し読んだだけで、お腹いっぱい〜💧

いかん、先は長い。

また読み進めて、報告？します。  
多分黙ってられないから。。笑

- **S. M.**

ありがとう～  
私も届いた。読まなくちゃ。。

**T K**

うまくまとめてくださって、分かりやすいです。チェルノブイリから福いいね！

**A. K.**

シェアさせて頂きました。

**I. S.**

チェルノブイリ後の Jacques Lochard らの動きを最大限活用し、別の進化が日本で行われたと思います。現存被曝状況、参考レベル・・・それらも超越した、狂気の絶対安全基準 20 ミリシーベルト。避難するという選択を完全否定するこの基準こそ、細野豪志らが作り上げた日本オリジナルの偉大なる負の遺産です。

「低線量被ばくのリスク管理に関する WG」等々・・・

**Y K**

ありがとう、これはポチります！！！！

**H O**

シェアします。

[下澤陽子](#)

[6月8日 22:48](#) ·

はい！第二弾😊

引き続き、じーっくり、読み進んでいます。

この10年を振り返り、私は1行1行全てが重く、胸に痛いです。抱えるのがしんどいから、ここでまた共有します。

皆様もぜひ読んでみて下さい。

第6章は…

【日本の放射能汚染の危険な現状】

私は、道を行く、普通の日本人に聞いてみたい。ここにある、たった1つの項目でいい、あなたをご存知でしたか？

私たちは共有していますか？

このことがメディアで報道されていますか？

10年が過ぎ、原発事故は風化してきている。。、なーんて！論評する前に、このことを1つで良いから、きちんと報道して、事故後のありのままの現実として、共有できるようにしましょうよ、今からだとしてもね！！

.....

### 【日本の放射能汚染の危険な現状】

① 放射線管理区域は( $\alpha$ 線を出さない場合は) 4万 Bq/m<sup>2</sup>以上の汚染のあるところである。居住はおろか、飲食・娯楽 勉強等々の生活行為は許されない。事故後、「放射線管理区域」 基準以上の汚染地域が膨大な面積を占める。福島県、宮城県、茨城県、栃木県、埼玉県に及ぶ。

②2016年での農民連測定による福島県北部地域果樹園の放射能測定では、162カ所の測定の内、放射線管理区域以下の汚染場所はたった1カ所であった。

③食品基準: 100Bq/kg は安全というべきでなく、「流通上やむを得なく決めた値であり、放射線感受性の強い方、子ども、病人、お年寄りには命に関わることもあり得ます。『どうぞリスクをご承知の上、お覚悟を決めて召し上がってください』というべきである。「日本の安全基準は世界一」(『放射線のホント』: 復興庁)は危険な誤報である。

④ 事故前の2008年での日本分析科学会の日本各地での測定によれば、多くの食品のセシウム137含有量は平均で0.01Bq/kgのオーダーであり、この汚染状況が日本市民の基準として参考すべき値である。例え1Bq/kgでも事故以前の100倍の汚染である。

⑤ 9年経過した後の作物汚染状況は、福島県の米全袋検査ではほぼ全てが25Bq/kgの測定限界以下の値となっている。しかし未だに東日本全域で多数の食品に放射能高汚染が認められる。特に山菜、淡水魚貝類 獣肉等に強い汚染が残存する。山海の珍味は要注意である。

⑥ ウクライナでは、わずか数Bq/Lの尿中量でセシウム137が膀胱がんの明瞭な発がん原因と認められた。内部被曝に要注意である。

⑦ 日本の農家等は「作らねば保障せず」と政府の政策下で、売らねば食っていけない状況に追い込まれた。放射能被曝被害の代わりに「風評被害撲滅」が現実となり、「食べて応援」に支えられざるを得なかった。

⑧ 「永久に続く高汚染地域に住み続けさせる」IAEA等の方針を実現するために、「先祖伝来の土地を守らなければならない」などの住民の願いが巧みに利用された。国内外の政府/産業筋の「心理学的ケア」の働きかけと住民自身の運動に見せかけた働きかけが入り乱れた。

⑨国際原子力ロビー主導の「住民の被曝を軽減しない(住民を被曝させっぱなしにする)」戦略に惑わされずに、人権を守る観点が大切である。決して「汚染地の生産者対消費者」、あるいは「避難者対残留者」などの被害者同士の係争に墮してはならない。

⑩他のあらゆる疾患・災害等に対しては感染防止、住民防護が徹底される。が、放射能被曝から住民を守ることはなされなかった。逆に「笑っていれば放射能は来ない」、「食べて応援」、「健康被害は一切ない」と被曝に対する警戒心は解かれ、被曝が強制された。この逆現象の根源は何か？住民は賢くならねばならない。

M S、他 62 人

コメント 14 件

シェア 10 件

**R C**

本が高いので内容をおしえていただいて有り難いです。

**N. M.**

フォローする

すべてにうなづきます。

**H O**

シェアします。

**H Y**

是非学校で教えて頂きたいです。

**N. A.**

シェアしました。

[下澤陽子](#)



6月9日 21:33

えーどうもーこんばんはー。💧

今夜は「風評被害」についてです！

1人静かに読めないのかあんたは！とおっしゃりたい事と思いますが、まあまあお付き合い下さいませー😊

新聞でもテレビでも、さかんに使われることば、風評被害、これってなんでしよう？

その本質的な意味について、わかりやすく書かれています。

この本を手にする事など決してないだろう、風評被害、の意味など考えてみたこともないであろう普通の日本人に知ってほしくて、ここに載せます。

実際、矢ヶ崎先生も本に書かれています。

安全、と言いますが、原発事故後の放射能基準は、水、米、根菜、葉菜、牛乳、などなど、全てにおいて、事故前の実際の測定数値に比べると、その10倍100倍、というものなのです。(ものによっては何万、何十万倍なんですよ

🙄！)🙄

「食べて応援」をする方々のほぼ誰1人として、その事は、知らされていない、と思います。

……  
…放射能問題を風評被害と呼び、食べて応援の大合唱が政府主導で起き、復興庁による「放射線のホント」は放射能被曝が事実上安全と語られている。実害が語られることはない。

しかし現実には放射線の作り出す酸化ストレスによる機能不全が全身に及び、多様な疾病を誘発し、放射線関連死は従来の概念をはるかに超えることなどが最近の病理学では明瞭になっている。

「風評被害」は生産者の皆さんには死活問題で「売れなくなる」大打撃がある。しかし、本質は風評による被害ではない。実害であり、生命/健康への脅威である。

確実な実害として放射能汚染が生産物に及ぼされ、それを食する人々を内部被曝させる。実害が発生する。その恐れがあるから人々はそれを摂取するのを



避ける。食材の選択は、食することで命を保つ人間の、市民の、基本的人権に属する権利だ。

生産者の皆さんにとっては、「売れなくなる」ことを心配しなくてはならない。同時に自身と家族の健康を心配しなければならない。安全な食材の生産をして、食する全ての市民の健康を守ることが生産者の倫理だ。生き方に関する基本的大問題が「風評被害」で片付けられて良いものだろうか？

「100mSv/kg 以下なら安全」では全くない。放射能は全ての人を傷つける。低い線量でも危険があることは世界では既に当たり前の事実だ。

強い人はピンピンしていても、弱い人は命を落とす場合があることは事実だ。食料の放射能汚染制限は、「健康上リスクはあります。場合によっては命を失うことがあるかもしれません。でも社会的関係でどうしても流通を許可させねばならない事情があります。皆さん、そのことを承知の上でお召し上がりください」というべき事柄だ。

食べて応援は誤りである。「応援」の中身は場合によっては命を賭すことになるのだ。

「安全だ」と大宣伝しながら「食べて応援」を呼びかける。そんなキャンペーンは人道上あってはならない。新型コロナウイルス等、他のあらゆるリスクとは真逆のキャンペーンだ。

政治の貧困からもたらされる「助け合い」 = 「犠牲になり合う」ことだと理解する必要がある。この「絆」を強めてはならない。悲しい背景が放射能にはつきまとう。

周囲の人が病気になったり、亡くなったりしている。健康が維持できなくなる時、病が「放射能でやられました」と看板を掛けて訪れるのでは決してない。通常、病名や具体的疾病名で、病気や死亡原因が記述される。それらの原因には放射能が絡まっている可能性がある。そのリスクを増大させることを許してはならないのである。

被災者同士の「汚染地農民」対「全国消費者」の利害相反の争いとしてはならない。ともに手を携えた連帯を示さなければならない。これが民主主義

国家の民の力となる。お互いの人権を支え合うことこそが自らの力で民主主義を維持するところとなる。

M S、他 60 人  
コメント 9 件  
シェア 14 件

H O

まとめてくださり、ありがとうございます。  
シェアします。

W S

下澤さん、講談師になれそう❤️

U E

水俣病も発生から 20 年間「風評被害」で片付けられていた。文句を言う人間には行政がやくざを雇って脅してきた。その手口は「関西電力 反原発町長暗殺指令 斉藤真著 宝島社」に詳しい。2012 年の本であるがあの高浜町助役で元部落開放同盟福井支部長 森山氏の所業が包み隠さず記されている。この事件で関電の八木会長 岩根社長辞任 部落開放同盟って左派の味方だと思っていたのだが.....

R C

これ全部音声入力なんですか??

[下澤陽子](#)

[6月11日 21:41](#) ·

まいどどーも！こんばんはー😊

このところ、毎晩のように、超スローな亀のようなスピードで 1 行ずつ噛み締めながら読んでいる私です。なんかもったいなくてね。笑🤔

昨夜は健康被害の様々なデータに基づく検証についてじっくり読みましたがとても紹介しきれない、からパス。

これは今の私たちにとって最も实际的で、そして本質的な問題なのだけれど、..。

一言で言うと、原発事故が起きてから 2017 年までの間に、約 27 万人の生まれることのできなかつた命があり、27 万人の、もっと生きることのできるはずで

あった命が失われている、その可能性があるという話です。  
それを、厚生省の人口動態調査を基に、数値解析をすることで、結論していますが、本では丁寧に一つ一つの解析について説明されています。  
今、これをしているのは、この矢ヶ崎克馬先生だけです。  
全く共有される事は無い、健康被害について、議論が始まってくれる日を私はずっと待ち望んできましたが、未だ始まる気配はありませんね。

2017年の段階で約54万の失われた命、それが存在していた世界があったかもしれないのですね、この原発事故さえなければ。

さて、今宵は、同じ規模のもう一つの原発事故であるチェルノブイリとの比較について、書かれているところを一部、ご紹介します。

4章では、住民保護の違い、と称して、その放射能被曝からの住民の守られ方の格差について書かれてました。

まあ、要するに、日本人たちは、守られなかった、守られていない、と言うことをことごとく突きつけられるわけです。

続いて、

## 10章 福島被曝

ーチェルノブイリでは現れなかった福島独特の被害ー

とあります。

前置きが長くなりましたが、今日はここをご紹介しますね。

.....

### ▶日本独自の被曝の拡大再生産のメカニズム

日本独自の社会的問題がいくつか生じている。

その一つはチェルノブイリでは年間5ミリシーベルト以上の汚染地では 居住も生産も禁止されたが、日本ではその汚染地域で20ミリシーベルトまでの地域に大量(100万人規模)の住民が住み、食料を生産し、「売らなければ食っていけない」状況に追い込まれた。

そのために、チェルノブイリになかった「汚染地での生産」が行われた。それによりシステムとして「被曝の拡大再生産」が展開する状況に置かれ

た。汚染地居住の住民だけでなく全日 本の市民を被曝させるメカニズムが徹底された。

セシウム 137 による汚染で、「放射線管理区域」（4 万 Bq/m<sup>2</sup>以上）に相当する地域に居住する人は 100 万人を超える。生活も生産も続けさせられているのだ。政府は、このような汚染地の中に住民を住み続けさせ、かつ、一旦避難した人々を帰還させようとしているのである。

第 2 の特徴は、住み続ける条件として行った居住地周辺「除染」の結果集積された大量の「除染廃棄土」が生じた。「除染廃棄土」を政府は公共事業等への再利用で全国に拡散して減少させようとしている。2 次被曝を全国に拡散する。そのために放射性廃棄物の制限では従前の法律では 100Bq/kg であったものが 8000Bq/kg までとされたのである。

第 3 の日本の特徴といえるのは、チェルノブイリでは事故後 7 ヶ月で石棺により基本的には放射能物質の環境への拡散は極力抑えられたが、日本では大量の地下水により汚染水が海に放出され続け、空中への放射能放出も深刻に続いている。トリチウムと他の放射能が大量に含まれたタンクの汚染水が生活環境と自然環境を汚染し続けている。人と環境への放射能汚染について海に廃棄されようとしている。メルトダウン炉の封じ込めに成功しておらず、人と環境への放射能汚染についての対応措置は日本とチェルノブイリでは大きく異なる。

国際原子力ロービーは、次の原発事故が生じた場合「住民はリスクを受ける用意があり、汚染地で住み続けることを望んでいる（1996 年 IAEA 会議）」として、「避難や移住をさせない」方針を打ち出したが、その具体策が I CRP2007 年勧告によって明確に打ち出された直後に東電事故が生じた。「住民を高汚染地域にとどめ置き、健康被害の事実を認めず（例えば小児甲状腺がん）、チェルノブイリで行った住民への保護施策は日本では取られなかった。原子力緊急事態宣言を出して従前の市民に対する被曝限度を 20 倍にした。この数値は日本市民の人権の低さの象徴となった。…

.....

このあと、

日本においては原発廃止の声はかなり強くても小児甲状腺癌をはじめとする住民の健康問題に関しては圧倒的に原子力推進側の勢いが強いことを書かれている

ます。

チェルノブイリ法で守られた人たちと、現在、福島及び東日本に在住の日本人たち、その人権の差、について、書かれています

胸の痛む現実ですが、まず知ること、知らせることから…と、ここに共有します。

調べない、知らせない、逃さない、  
これを、今からでも止めていくために、小さな一矢を報いたい、と思います。

M S、他 56 人

コメント 9 件

シェア 23 件

**H O**

N. A.

シェアしました。

S, M.

ありがとうございます！

読みます！

M. M.

♪ シェアしました

N. M.

**フォローする**

旧ソ連は国際原子力競争に勝ったんだよね。事故前はみんな健康だったんだと思う。そう考えると日本は事故前から原発が 55 基もあり、病人だらけで、異変に気づきにくいのかもかもしれません。成人病にまず成るから。

K. R.

ありがとうございます❤️コメントごと、いただきます！

[下澤陽子](#)

[6月16日 21:52](#) ·

いや～参った～💧💧💧

難しいっ💧第二部！

夕飯の後のぼけた頭だとまるで理解できない。

第二部は、

ICRP 国際放射線防護委員会のこと。

これは、私たちに、放射線被曝防護の基準を押し付ける存在です。🙄、今の

日本はそれも守っていないという話もありますが。。🙄

日中も使って、舐めるように、分解しながら、第二部だけ3回、読みましたー！

難しくてもね、これ、健康被害を受けた身としては、読み流すことができないことだから。

「これぐらいの線量では、健康被害は起きません」

なんて言われて、はいそうですか、なんて言わされてたまるもんですか！

うー❗ICRP め！

読めば読むほど、知れば知るほどに、悔しく、こんなものが、世界を支配しているのは、信じ難く、許せない。

そして、原発事故の起きた日本で、お医者がこのICRPの存在をほとんど知らない、というのがまた、ありえない！（三田医師アンケートによると）🙄

自分たちの放射線被曝の教科書作ってるのがどんな組織なのか、なぜ知らない？

それで、なぜ、放射能影響を心配する患者さんに向かって、説教ができるのよ！医者って！

…て、ごめんなさい、横道にそれました。

第二部は、

【科学を踏まえた放射線防護の考え方】

ーICRPは科学体系ではないー

ちょっと本が難解なので、私なりの理解で、お話ししますね、さわりだけ。  
間違ってたらごめんなさい🙏

ICRPの言うことって？

もっともらしく実効線量、とか生物学的等価線量などと名前をつけて、足したり引いたりそれっぽい算数をして、人間が、作り出した科学、じゃない、「お

話」なんですね、要するに。

やっているのは、抽象的なエネルギーの計算ばかり。具体的な被曝、つまり電離、分子切断に私たちの体がどう反応するかを解明する、と言う最も基本的な科学の出発点にも立っていない。

人が放射線を照射されると、その放射線は全部の細胞にくまなく平均的に吸収される、ということになっているらしい。

どこに、どんなふうにどれだけ当たるのか、て、そんな事は問わないらしい。

いや、臓器ごと、には出してるんだっけな。

それが、臓器荷重係数(実効線量)、てやつ！

なんとなくは知っていたけれど、きちんと知ると、これ、なかなかすごい。

ここの臓器で「がん」が、これだけ増えたから、放射線をこれぐらい(%)吸収したんだろう、ていうので、係数、てのを決めてるらしい。0.1、とかね。すべての臓器の係数を足して1、にするんだって💧なにその雑さ加減、て！

なんちゅういい大ざっぱな仕事の仕方！

私の家事への取り組み方よりすごい！と思った。

どうです？

これで、内部被曝の、な、の字も、語れるわけなし。。

放射性微粒子は？ホットパーティクルは？

今、東日本の土壌のセシウムは、98%が、不溶性放射性微粒子なんだって言うけど。。

それを吸い込んだら？

体の中に入ったらどうなるの？

何も全部の細胞が被ばくするわけじゃないでしょう？

ICRP は内部被曝の計算も「実効線量」を使ってやっているけれど、例えば、入り吸い込んで、とどまってしまった放射性微粒子のリスクをも全身被曝量とすることにしちゃうわけなの？

私のような主婦だってね、おかしいと思うわよ！

矢ヶ崎先生曰く

↓

.....  
生命体は、臓器あるいは体全体に均等に薄く広く分布された状態の異常細胞の修復に置いて、身体各部の修復阻止(生体酵素)が同時に働くことによって修復率を高くすることができる。しかし1カ所に集中した電離に対しては、局所的



にたくさんの修復素子が集中することが困難となり、異常細胞の修復率は減少してしまう。

.....

そう、内部被曝って、こういうことだものね。

なんてところはね、スルーするわけね。

ほんとに、たいした科学者集団です、ICRP って。いやいや、科学者じゃなかったんです。

科学なんてどこにもないのです。

ICRP の科学って何か？って、こんな風に書かれています。

.....

#### ◆加害者の目線を支える 「科学」

ICRP は発電企業に都合の良い基準を、本来命を守ることを意味する防護基準のなかに、それも核心部にすべりこませた。これを人道上の反倫理体制と呼ぶずになんと表現しようか。核分裂利用による発電を社会的に受容させる目的の下に、不可避な犠牲の甘受・受忍を市民に体制的に強制する反人道的な「科学」=偽科学を構築推進しているのである。

既に述べたように、「正当化」の論理は、放射線被曝を伴う行為はそれによって「放射線リスクより公益が大であればよし」とし、「最適化」は被曝を経済的および社会的な要因を考慮に入れながら合理的に達成できるかぎり低く保てばよい: as low as reasonably achievable A LARA 思想としたのである。ALARA 思想は日本国憲法第 25 条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」や 13 条「すべての国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする」と根本的に明白に相容れない。

ICRP は自然科学上の基本法則、外力と反応との区別を消滅させるのに、異なった量の混然化、具体性捨象を行った。そのことによって核利用即被曝の危険を隠ぺいし、核先進国家及び核依存企業の利益を最優先し、反人道、反科学に徹して、学術研究団体の良識を捨てて、なりふりかまわない奉仕機関に堕した。ICRP の疑似科学体系を全面的にもろに駆動させることによって、成り立たせようとしている。

.....  
さてこのえげつない ICRP、なんてものが、どうして世界を支配してるんでしょ  
うね。

矢ヶ崎先生は、ICRP を、戦争の実行部隊だって話しています。  
どんな戦争か、と言うと、  
「知られざる核戦争」です。

それがどんなものなのか、第二部に書かれているところを、最後に紹介しま  
す。

知られざる核戦争については、第五部に詳しく書かれてますので、これできたら  
また後日紹介したいです！

しかし！まだ第二部💧  
なーんと！  
第七部まであるんですー！  
行き着けるのか。😅

.....  
(6) 知られざる核戦争

① 核戦争は「原爆を落とす」という巨大破壊と大量放射能放出を伴う核戦争  
である。

② 誰でもが認識しているとは限らない。

「知られざる核戦争」とは、放射線の犠牲者を「放射線の被害者」として認め  
ないで、核の被害者を隠ぺいするという核戦争である。核推進の権力が市  
民に対して行う情報操作である。

③ 欧州放射線リスク委員会 (ECRR) は大気圏内核実験等々によりおよそ 6000  
万人が核の犠牲者となったとしている。(ECRR2010 年勧告第 14 章)

④ 被害事実を切り捨てるのに、例えば、チェルノブイリ事故後の健康被害  
を語るロシア語等の論文を言語上の問題や「科学論文に必要な要素を欠く」

という理由で健康被害の報告を論文として認めないという手段を駆使した(ヤプロコフら 「チェルノブイリ事故被害の全貌」岩波書店)。

⑤ また、論理的、医学的に原因のすり替えが行われており、倫理上の大問題がある。

「長崎被爆体験者」の健康被害を「あなたは放射線には打たれておりません。放射線にあたったのではないかという精神的ストレスが病をもたらす」という精神的原因に放射線被害をすり替える(『1991年 IAEA 国際諮問委員会報告書 委員長重松逸造)手段が用いられる。

被爆体験者は健康被害に対する医療手当を請求する時に精神神経科や心療内科の通院証明が要求される。しかし精神症はがんを引き起こさないという理由で、当該市民ががんになったら医療手当がストップさせられることになる。何という酷な行政の仕打ちであろうか。人体影響などは客観的事実であるが、これが切り捨てられ、無視される論理である。これは、ICRPの科学的、医学的、論理的体系の特徴が現れる措置である。

⑥ それゆえ広島長崎被爆者以来、世界の何千万人もの放射線犠牲者を記録上から抹殺し、切り捨て、認知しないで来た。このことによって、もろもろの健康被害は切り捨てられた。

M S、S. K.、他 24 人

コメント 13 件

シェア 6 件

W S

スゴイ名通訳ぶり(^-^)

S. M.

えらいわーえらいわー

今日開いたけど閉じてしまった

明日こそ読むぞ。...

R C

私も読みたいですが本が高いです

H O

シェアします。

N. A.

シェアしました。

N. Y.

シェアさせていただきます👉

## 下澤陽子

6月27日 22:19 ·

どうも一ご無沙汰でしたー！笑

いや～まだ読んでたんですよー😊

後半は内容が難しいので、まだまだ理解しきれず、何度も読もうと思っています！

飛んで、最後の部。

ご紹介したいな、と思ったことから。

本の最後の部の第4章。

矢ヶ崎先生がつながり、支援をされている避難者の会、「つなごう命の会」についてがテーマ。

読みながら、私たち家族の、そしてつながっている多くの避難者友達の、歩んできた道のりが浮かんできたから。

今の日本で、ほぼ全く報道されず、99.99%の人は知らないかもしれないけれど、起きてきた原発事故後の真実。

私は、我が子の体が追い詰められて、ニッチモサッチもいかなくなっって避難をしてきたけど、それは将来の健康を守るため、というより、我が子が今、を健康に生きていくために避難をしてきた。

いわば「指定区域外」からの避難者。東京から？て、おかしい顔されるけれども、このような状況が少なくとも東日本全域で現れた、と、避難者を知る矢ヶ崎先生は語られています。

ちょっと長いですが、本から抜き出して紹介させてください。今、ほぼ、全く語られることのない原発事故による健康被害や、避難についての現実がここにあります。

私はずっと伝えたい、日本の人に、世界の人に共有してもらいたいと願ってきたことが、ここにしっかりと書かれています。

.....

我々の避難者アンケートでは、避難者の大多数が健康異変・体調変化を経験している。アンケート対象者が避難者という条件である調査であるが、福島県以外からの避難者のほうが、健康異変を経験した割合が福島県内からの避難者より多い。福島県以外から避難してきた人は一切の社会的支援の対象とされず、まさに棄民状態である。条件は過酷である。

個々の体験を聞くと、「体調が極めて悪くなったので、沖縄に一時避難して、体調が良くなったので故郷に帰った。しかし、ホンの2カ月ほどで、再度悪化し、長期避難に踏み切らざるを得なかった」というケースを筆頭に、実にリアルに被害状況を語ってくれる。

避難は「社会的な我が儘」などでは決してない。勇気ある決断と称する場合もあるが、追い詰められて最後に残された必死の手段なのである。避難をした場合とそうでない場合が、命を分けることとなる。このような状況が少なくとも東日本全域に現れたのである。事故後数年で「多すぎるお葬式」の話が沢山の方から聞いた。

中略

チェルノブイリ法では1mSv/年以上では避難の権利があるとされ、それ以上の汚染地帯では国の責任で避難者が守られた。日本ではそれが破棄された。もしチェルノブイリ並みに個人の判断が尊重され、移住か居留かの選択権を与えられ保護されたのなら、どれほどお母さんたち/避難者たちのストレスが軽減されていたのか計り知れない。日本の避難者は時には反社会的であるかのようなそしりを浴びながら、凜として避難を選んだのである。実に過酷で尊い選択である。

**【放射線被曝の被害の現実を認め、「健康被害の恐れ」という未来形を現実の今に当てはめること】**

帰還を制限されていた高汚染地域の住民の大多数が帰還しないことを決意していることだけに注目が集まる傾向がある。また、彼らの多くが胸を張って堂々と賠償金等を受け取ることができない心境に追い込まれている状況も聞く。日本政府の対応が主権者を守る姿勢から外れていなければ、そのような住民同士のストレスは生じない。

福島県内・県外を問わず、指定区域外の避難者の避難理由は、放射線被曝による健康被害を現に体験して、あるいは論理的に予測して避難している者ばかりである。

故郷喪失は単に土地野山の喪失だけでなく、頼り合い支え合ってきた人間関係/社会がなくなってしまうことを意味する。頼みにしていた社会が破壊されることは、避難を指定されたところの人々も、指定区域外の人々も同様である。

特に指定区域外避難者が損害賠償等の訴訟に加わる場合が見受けられる。訴訟姿勢が「平穏生活権侵害に基づく損害賠償請求」、「『ふるさと喪失』による損害賠償請求」、「原状回復請求」等の国と東電が認めた請求に留まるケースが多い。

放射線内部被曝は日本全国に及ぶ。内部被曝による生命の危険・健康被害が正面から取り上げられない限り、区域外避難者の賠償額は雀の涙に留まるのは必然である。

「放射線被曝による健康被害」は原発にとって本質問題である。だが国/東電は健康被害を否定している。裁判所が放射線被害を自発的に取り上げることはあり得ない。放射線被曝は弱い人から症状が先に現れる。命を失う人も出てくる。放射線被曝に対する「頑丈な人」の目線でしか取り扱われていないのが現状だ。放射線被曝に敏感で被害を受けている人々の声が無視されているのではないか？ 避難している人は汚染地域にいる人と共に、全て放射線被曝の実際の被害者である。

また、賠償そのものを「現実生活の実質的救済」に求めなくて、民事訴訟としての「窓口開き」程度に、もし、構えているとするならば、実際上の救済はなしえない。現に原告数の多いことで知られる訴訟でも放射線被曝は「危険」あるいは「恐怖」に留まるのではなかろうか。実際に命を落とした人がたくさん居ることを避けているのではなかろうか？ 賠償は雀の涙にもならない少額である。避難のために出費した実額は巨大だ。賠償は実際の苦難に応えるものであって欲しい。

避難者は指定区域かあるいは指定区域外かに拘わらず、大概は地元で温かく迎え入れられているが、多くはいまだに家族がバラバラに住むことが続き、子どもや父母、本人の社会環境は不安定なケースが多く見られる。

国は、放射能汚染と内部被曝が広範囲に及ぶことを認め、特に、指定区域外避難者に正当な評価を与え、社会的に処遇することが急務である。もちろん高度に汚染された地域に住む方の被曝防護策は必須である。日本全市民に対する内部被曝防止策は必須である。

2度とこのような悲劇が生じないために原発の廃絶は喫緊の課題である。

M S、他 58 人  
コメント 16 件  
シェア 46 件

**M E**

抜粋ありがとうございます🙏🌿

矢ヶ崎先生が書き記してくださる言葉の中には、「避難を決意した自身を責める自分」を労って下さるものがたくさんある。

普段の生活に労いの言葉を受け取れる機会などある筈もなく、今日は、心がスッと一瞬軽くなれ救われました🌿

故郷...

**M E**

抜粋ありがとうございます🙏🌿

矢ヶ崎先生が書き記してくださる言葉の中には、「避難を決意した自身を責める自分」を労って下さるものがたくさんある。

普段の生活に労いの言葉を受け取れる機会などある筈もなく、今日は、心がスッと一瞬軽くなれ救われました🌿

故郷を捨て夫のキャリアも人間関係も捨てさせた事も、生まれた時から一緒だった兄弟姉妹の様だった友だち関係を失った子ども達の事も、人生の大半を生きた故郷の全てを捨てて娘家族と来てくれた母への感謝と陳謝の想いも、少お～しだけ軽くなりました😊

陽子さんのシェアに感謝です🙏🌿

S. M.

シェアさせていただきます！

A. H.

シェアさせていただきました。ありがとうございます。

R. Y.

ありがとうございました。

我が家も東京自主避難組です。



なかったことにされている存在ですが、忘れてはいけない事実なのです。...

H O

シェアします。

K T

最近目が悪くなり、分厚い本はとても読めないで、助かります。すみません。もしわかれば教えてください。その本の中で、「福島以外からの避難者の方が健康異変を体験した割合が多い理由」について矢ヶ崎先生は何か書かれていますか？私自身は避難時期の問題と、焼却による影響の問題が大きいのではと思っているのですが。。。ふれておられないでしょうか？その理由について、考えていかないと、話は思わぬ方向に行ってしまうようで、気になっています。

## 下澤陽子

7月2日

こんばんは～🌟

しつこく続けて参りました、この本のご紹介、今夜で最後にしますね、お付き合いありがとうございました❤️

さて、みなさま、これから日本で行われようとしている、パンデミックの中のトチ狂ったオリンピック、これは、そもそも復興五輪、とか、いわれてましたね。

「未だ、帰れない避難者がいるのに」

なんて声も、小さく聞こえましたね。

でも違う。本当は、

「この許されない汚染と共に、生きざるを得ない人達がいるのに！」

そう、言わなきゃいけないんだ、て、私はずっと思ってきました。

矢ヶ崎先生、それを、ずれることなく、しっかり書かれています。

今日は本の最後の文章

むすびに

一われわれは勇気を持って応えられるだろうかー

のところ、ご紹介させてくださいね。

.....

居住制限区域はどんどん狭くなる。モニタリングポストの表示値は半分しかない。そのような表示システムで20mSvを下回ると判定されるのは恐怖である。

放射線管理区域以上の汚染を示した土地に100万人以上の人々が子どもを育て、生活・生産を続ける。復興が待望され、オリンピックまでもが開催される。もう、原発事故は終わったのだと！

国や自治体からは被曝無視の「復興と帰還」が迫られる。被曝防護の「非防護化」が法律に盛り込まれようとしている。

.....

矢ヶ崎先生から紹介される厚生労働省のデータ。2011年以降の死亡者の異常増加と、出生率の異常低下。

これ見る時、私、いつも、感じてた。この、本来あったはずの予想曲線と、現実の曲線との間にある一人ひとりの命のこと。

グラフにしてしまうと、そのことの意味が、見えなくなってしまうな、て。

でも、矢ヶ崎先生、「なきべそをかきながら」このデータをグラフ化したんだって。

読んで、初めて知りました。

愛ある、尊敬すべき、科学者、と、改めて思うのです。

矢ヶ崎克馬先生、のこと。

最後に話されている「人類としての知性」で、こういうことだと思っんです。

人間、一人一人、への想像力。

人間、への愛、と思うのです。

東京で、私はこの先生の発信がなければ、我が子の体と、内部被曝を結びつける事はなかったかもわかりません。小児科の診察室で、いくら怒られても、馬鹿にされても、めげることも、揺らぐこともなく、避難へ、と歩むことができたのは、この先生の発信があったから。

愛ある、貴重な発信が。

感謝し、私も、ともにこの「知られざる核戦争」にあらがっていきたくて願います。

なので、こうして、ここに、矢ヶ崎先生の大切な言葉を、この本のいちばん最

後の言葉を、ここに載せます。  
読んでみて下さい！

.....

…しかし、著者らのデータ整理一つ取って見ても、2011年以降の死亡者の異常増加が多量に認められる。原発事故が原因であると断定するに至っていないが、放射能の可能性を否定することはできない。著者はなきべそをかきながらこれらのデータをグラフ化した。

臨床的には個別の死因が放射線被曝であるとはほとんどの場合判定できない。ウイルス/細菌感染、化学物質などの被害と全く異なる。それが故にいくらでも嘘がつける。曰く、  
「甲状腺がんは原発事故とは無関係」  
「犠牲者は皆無である」  
「笑っていれば放射能は来ない」。

犠牲者が出て、疫学的調査などで統計的に学問的に原因が判明してから対応したのでは世界市民の命は守れない。予防医学的見地を貫くことが出来ないならば、市民の命は金輪際守れないのである。被曝被害の正確な科学的な理解が市民に必要なのである。

科学の柱を貫いた「科学的知見」がこれほど破壊され、政治が住民を犠牲にする分野は外には見られないのである。

住民の健康はこれからどうなるだろうか？  
福島原発事故で事実と命がどのように大切にされたのだろうか？  
被災者の命と暮らしを守り、放射能から住民を守る人道、住民が自らの命と暮らしを守れる人道が、どのように発揮されたのであろうか？

事故前の法律で市民と約束されているおよそあらゆる被曝防護基準が20倍~80倍とつり上げられ、原子力災害特措法等で規定されて避難訓練などで実施されてきた「防護」がいつも簡単に破られ履行されなかった国の住民が我々だ。

コロナなどあらゆる他の疾病や災害は感染防止、危害防止が徹底している。

それとは逆に被曝災害は、  
「基準をつり上げ」  
「食べて応援」  
「風評被害撲滅」  
と、逆に被曝が強制された。

我々はこの文明を逆転させている政治の生き証人であり、犠牲者でもある住民だ。主権在民であり、「先進国」、「文明国」を標榜する国の住民だ。我々住民はこの10年の事態を何とみるか？

住民の気骨、住民が自らと国を変革する気概が必要に思える。

政治と科学の関係：命と科学の関係：科学のあり方が我々に大きな課題を投げかけている。

科学と人道に基づいて、我々は勇気を持って主張できるであろうか？ それに応えられるだろうか？

福島原発事故を経験した日本住民の、世界市民・未来市民に対する人間としての誠実さを発揮したい。

核兵器廃絶の課題と共に人類の英知が発揮できる「人類としての知性」を保ち続けたい。

矢ヶ崎克馬 2021年春

M S、Y.H.、他 61人

コメント 8件

シェア 34件

**R C**

もっと続けてほしいです

**N G**

シェアさせていただきます😊

**H O**

シェアします。

T O

泣きべそをかきながら、、、胸が締め付けられる思いがします(😞)  
もう二度とこんなことがないように、福一の事故からきちんと学んで欲しいの  
ですが。

M. Y.

有難う御座います  
泣けて泣けて、  
事故以来張り裂けそうな心残して  
福島に帰った40年の友に、私は我が神戸に避難された下澤様と、何回かメール  
のやりとり、のあと、  
避難をすすめたり、何回も説得する度に  
離れられない親の残した理由があると、反対に説得され  
それなら食事で応援してくれといわれ、断ることができず何度も買い食べて応  
援してしまい  
何をしてるのか解らなく成り  
自信なく成り  
その5年間に  
叔母と  
姉妹のように育った、親とのつながり  
兄弟従姉妹4人、全て関西なのにと、姪っ子の  
嫁ぎ先の親を癌で亡くし、  
自分も医者に癌の宣告を受けこの10年間の間に  
説得力 説明力 理解力まで が力尽きていく  
なら政治を変えるしか無いと  
、それならと、自治会 他市民運動に没頭、  
ある日の  
矢ヶ崎先生のお言葉の  
励ましで今はただ生きてられる でも だんだん蠟燭の火が消えそうになって  
いく自分  
あの熱血、の自分の語りと  
友への 想いは  
砕かれていく  
今何を考え、自分さえも、支え切れない いのちつて  
人のために使うのよ、と10歳で父を亡くした時  
母に教えられた

### (3) 松元保昭氏

新刊：矢ヶ崎克馬著『放射線被曝の隠蔽と科学』（緑風出版、2021年5月、定価3200円）原爆投下直後の隠蔽・被爆者放置からフクシマ避難民切り捨て「風評被害」の棄民政策に潜む「内部被曝」を暴き、いまも「知られざる核戦争」を続行する国際原子力ロビーのエセ科学を批判する！《原水爆や原発による放射線被曝は、ヒロシマ・ナガサキからチェルノブイリ・フクシマまで、これまで一貫して被曝防護の基準を核推進の国家や企業に有利になるように制定し、事実を隠蔽し、市民の健康を無視し、被害を拡大してきた。その推進勢力こそが国際原子力機関（IAEA）・国際放射線防護委員会（ICRP）・原子放射線の影響に関する科学委員会（UNSCEAR）・世界保健機関（WHO）などの国際・国内原子力ロビーであり、エセ科学とエセ科学者を総動員し安全神話を捏造し、人びとを欺瞞してきた。本書は、国際放射線防護委員会などの防護の考え方や防護基準を科学の目で批判し、どうすれば放射線被曝から市民のいのちと暮らしを守れるかを考える。著者（1943年生まれ、琉球大学名誉教授・物性物理学）》とくに、「原子雲」形成の機序解明、放射性微粒子を核とした「黒い雨」の正体、無視・誤認された「水平原子雲」と「黒い雨」雨域の科学的論証、またネバダのような乾燥地帯と異なる広島・長崎の多湿大気中における微粒子の力学的挙動の解析、内部被曝と外部被曝における電離作用の比較解明・啓蒙活動などによって、「放射線による被害はない」「被曝体験による特定精神疾患」などという国家の放射線汚染区域とその認定基準の過小評価の元となった重松逸造を座長とする「専門家会議」を徹底批判した、科学者としての著者の働きは圧巻。じっさいに、2003年から「原爆症認定集団訴訟」の19連勝に貢献した。また3・11直後から、福島に足しげく通い放射線測定器を届け各地で学習会を開いたが、自ら被曝者となって病魔に襲われながらも、妻・沖本八重美が結成した「つなごう命—沖繩と被災地を結ぶ会」により、「原発事故避難者通信」も93号を重ね実践活動にもとぎれなく力を注いだ。こうして、ヒロシマ・ナガサキ・フクシマの被曝の実相を追い続け解明する著者の人生の始まりには、支えあい導きあってきた広島最年少の胎内被曝者であった妻・故沖本八重美との出会いと道行があったが、そのたゆまぬ活動記録は感動的でさえある。本書は、ビキニを加えて四度の被曝体験をもつ被曝国日本における、絶大な国際的核権力に抗した稀有な科学者の現代に突き付ける闘いの記録である。「事実をありのままに認識することは民主主義の土台である」を座右の銘にし、どこまでも

「誠実な科学」を追い求める著者：矢ヶ崎克馬さんを応援し、共に学び、共に闘いましょう。ご注文【本書ご希望の方は、「住所・氏名・電話」を添えて本メールにて返信していただければ、送料・消費税なし「定価のみ」で送付いたします。（振込用紙を同封します。）】パレスチナ連帯・札幌：松元保昭【ご参考に】■ICRP体制に終止符を！—内部被曝の真実 初出：2012年4月20日 矢ヶ崎解説加筆修正・西尾補論挿入：2019年3月30日 <もくじ> 配信にあたって……1～5 頁 市民版 ECRR2010 勧告の概要：矢ヶ崎克馬解説……………5～25 市民版 ECRR レスポス宣言 2009：矢ヶ崎克馬解説……………25～41 ICRP 体系を科学の目で批判する—社会的・経済的戒律から人権と科学の体系へ：矢ヶ崎克馬……………41～50 矢ヶ崎克馬講演パワーポイント：第3回被曝・医療、福島シンポジウム……………50～70 補論・放射線医療現場から ICRP の似非科学を批判する：西尾正道……………70～82 アドレス <https://firestorage.jp/download/f745ca1cc989dc10500353e6a21a54027ea84893> パスワード psis\_21065 この80ページにおよぶ文書は、世界の原発政策を推進している国際原子力ロビーの出先 ICRP の核心を真っ向から科学的に批判した証言であり、原発推進勢力との訣別を提言したものです。「核と原発のない世界」を望む市民、医師、研究者、学生、行政・司法・医療関係者など幅広い市民が無料で自由に利用できることを目的につくられたもので、専門家である矢ヶ崎 克馬さんと西尾正道さんが協力してくれました。お二人の、歴史に残る人間と科学に誠実な証言から学ぶことは大きいと思います。



【書評】

矢ヶ崎克馬 著『放射線被曝の隠蔽と科学』

緑風出版、2021年5月、定価3200円（税抜き）



《原水爆や原発による放射線被曝は、ヒロシマ・ナガサキからチェルノブイリ・フクシマまで、これまで一貫して被曝防護の基準を核推進の国家や企業に有利になるように制定し、事実を隠蔽し、市民の健康を無視し、被害を拡大してきた。その推進勢力こそが国際原子力機関（IAEA）・国際放射線防護委員会（ICRP）・原子放射線の影響に関する科学委員会（UNSCEAR）・世界保健機関（WHO）などの国際・国内原子力ロビーであり、エセ科学とエセ科学者を総動員し安全神話を捏造し、人びとを欺瞞してきた。本書は、国際放射線防護委員会などの防護の考え方や防護基準を科学の目で批判し、どうすれば放射線被曝から市民のいのちと暮らしを守れるかを考える。著者は1943年生まれ、琉球大学名誉教授・専門は物性物理学》（以上は本の帯・袖から）

書の特徴は、各章冒頭の囲みで主張のエッセンス科学的な公理として語られ、これを通覧するだけ探究の全体像がつかめる。国際原子力カマラの工学を科学方法論の根底から批判し、フクシマ後継されてきた列島の被曝状況が暴かれ、つねに評価を導くその欺瞞的政策が、人権と人道の立ちきびしく告発される。

くに、「原子雲」形成の機序解明、放射性微粒核とした「黒い雨」の正体、無視・誤認された平原子雲」と「黒い雨」雨域の科学的論証、まバダのような乾燥地帯と異なる広島・長崎の多気中における微粒子の力学的挙動の解析、内部と外部被曝における電離作用の比較解明・啓蒙などによって、「放射線による被害はない」「被曝による特定精神疾患」などという国家の放射線汚染区域とその認定基準の過小評価の元となった逸造を座長とする「専門家会議」を徹底批判し、闘争者としての著者の働きは圧巻。じっさいに、1年からの「原爆症認定集団訴訟」の19連勝に貢献した。

た10年前の3・11直後から、福島に足しげく通線測定器を届け各地で学習会を開いたが、自曝者となって病魔に襲われながらも、妻・沖本

八重美が結成した「つなごう命—沖縄と被災地を結ぶ会」により、「原発事故避難者通信」も93号を重ね、実践活動にもとぎれなく力を注いできた。

こうして、ヒロシマ・ナガサキ・フクシマの被ばくの実相を追い続け解明する著者の人生の始まりには、支えあい導きあってきた広島最年少の胎内被曝者であった妻・故沖本八重美との出会いと道行きがあったが、そのたゆまぬ活動記録は感動的ださえある。

本書は、ビキニを加えて四度の被ばく体験をもつ被ばく国日本における、絶大な国際的核権力に抗した稀有な科学者の現代に突き付ける闘いの記録である。「事実をありのままに認識することは民主主義の土台である」を座右の銘にし、どこまでも「誠実な科学」を追い求める著者、矢ヶ崎克馬さんを応援し、共に学び、共に闘いましょう。

（パレスチナ連帯・札幌 松元保昭）

本書ご希望の方は、「住所・氏名・電話」を添て下記メールで注文していただければ、送料・費税なしの「定価のみ（3200円）」で送付いたします。

松元（y.matsu0029@gmail.com）

